

平成20・21年度我が国の伝統文化を尊重する  
教育に関する実践モデル事業

宮城県教育委員会

1 研究課題

(1) 研究課題

- ① 我が国の伝統文化に関する教育について、教育課程への位置付け、指導内容、指導方法、教材についての実践研究
- ② 地域の実態に即した外部人材や団体等との効果的な連携方策の研究

(2) 研究課題設定の理由

我が国の伝統文化に関する教育については、本県各小・中学校において、国語、社会、音楽などの教科や道徳、総合的な学習の時間で取り上げている。

今後は、平成18、19年度と本事業に取り組んだ石巻市立石巻小学校の実践（「伝統文化教育全体計画」「伝統文化と関連させた各教科等の単元一覧」等）を参考にしながら、改善を図り、さらに充実させていくことが求められている。

また、伝統文化に関する教育を進めるに当たり、長い経験に裏付けされた技能・技術を有する地域の人材等の活用が欠かせない。今後さらに外部人材や団体等の発掘と活用や、連携方策の研究の促進を図っていくことが必要である。

以上のことから、実践に裏付けされた各計画の改善と、外部人材等の活用や連携方策について研究を継続し、その成果を県内各小・中学校に普及し、我が国の伝統文化に関する教育への取組を一層推進していくために、上記研究課題を設定したものである。

2 モデル校名

石巻市立石巻小学校  
石巻市立石巻中学校  
石巻市立雄勝中学校

3 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 伝統文化に関する教育連絡協議会の実施

学識経験者、モデル校研究主任、モデル校担当指導主事2名の計6名より構成した連絡協議会を年間2回実施し、モデル校の実践を参観するとともに、モデル校の研究、研究成果の普及及び宮城県における伝統文化に関する教育等について協議した。

(2) 連絡協議会における協議内容

- ① 形から心に入っていくことも大切である。特に小学生は、まず形をしっかりと身に付けさせることを大事にすべきである。
- ② 結果をすぐ求めるのではなく、長いスパンで見えていくことが大切である。1度や2度の経験で終わらせるのではなく、繰り返すことにより児童生徒に身に付けさせることができる。
- ③ 小学校と中学校の連携を今後一層進めることが大切である。小学校で身に付けたことをいかに中学校で生かし、さらに発展させていくことが求められている。
- ④ 中学校では、なぜ学ぶのかを大事にしたい。それが学ぶ意欲を高めることにもつながる。
- ⑤ 地域人材を学校で活用していくとともに、学校で学んだことを地域の中で生かしていくことも大切である。地域との双方向のつながりが大事である。

4 研究成果の普及

モデル校の研究成果を、モデル校のホームページや県教育委員会のホームページを通して県民に公表し、県内各小・中学校における我が国の伝統文化を尊重する教育の取組の促進を図る。

5 今後我が国の伝統文化を尊重する教育をより推進するための課題と改善策

- 実践を積み重ねてきたものをいかに継続・発展していくかが課題である。そのためには、「指導計画」「指導方法」を確立し、確実に次年度に引き継いでいく。